

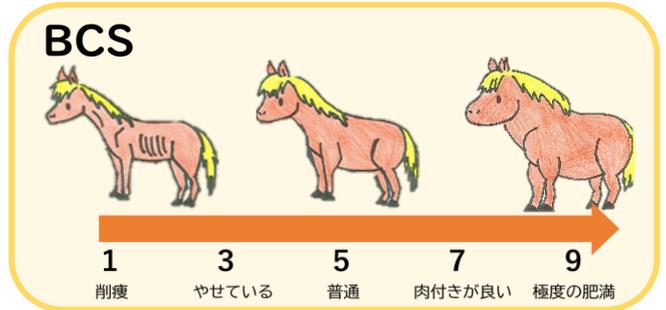
## どうぶつの体重

飼育員・はまだ

動物の健康管理の1つに、体重測定があります。太りすぎも、痩せすぎも身体にとってよくありません。動物たちそれぞれに適正体重というものがあります。動物園では、健康の指標の1つとして動物種に合わせた様々な方法で体重を量っています。(ライオンなど、動物種によっては麻酔をかけた時でないとは量ることができない動物もいます)

もちろん体重の数字だけが全てではなく、同じ動物でも個体によって体格も異なるため、見た目で判断するBCS(ボディコンディションスコア)と言うものもあります。

日々の体重の変化とBCS・動物の行動など総合的に観察して、エサの内容を検討したり、運動量の見直しを行ったりと健康管理に努めています！



### 2025年12月のポニーの体重

サチコ： 90.0Kg  
クロ： 95.5Kg  
ユキ： 143.0Kg



レッサーパンダの  
体重測定の様子



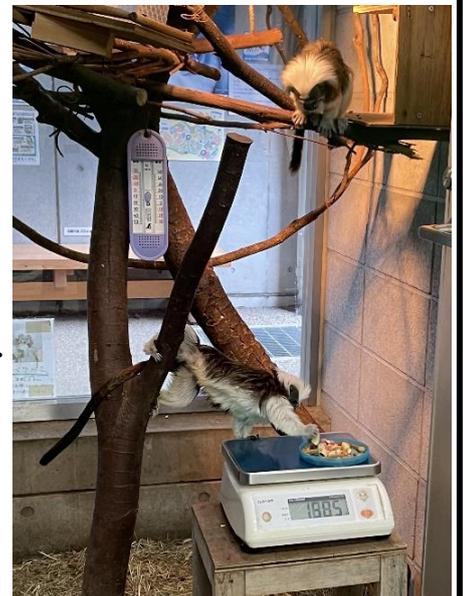
## どうぶつの体重・パート2

飼育員・ほんだ

パート2ではワタボウシタマリンの体重測定についてご紹介します。

ワタボウシタマリンは小型のサルで、体重は400~420gです。体が小さいがゆえ、体調不良で食べる量が減ると体重に影響が出やすいです。そのため、定期的な体重測定が病気の早期発見につながります。

計測方法は至ってシンプルで、電子スケールに餌をのせて誘導し計測します。7月に仲間入りしたアン♀は体重測定の練習中。意地でもスケールの上に乗りにくく、必死に腕を伸ばし餌だけ取って逃げていきます。練習の様子を見かけた際は、温かく見守ってください。



ときに、野生の動物が園内にまぎれ込むことがあります。  
年が改まった1月半ば、1頭の野生のタヌキが園内のサル舎わきの土手で見つかりました。動きが鈍かったこともあり、容易に捕獲されて動物病院に運び込まれました。毛並みが荒れ、皮膚はかさぶた状にゴワゴワし、一見してカイセン症であることが見てとれました。皮膚の顕微鏡検査でもセンコウヒゼンダニが確認されました。



センコウヒゼンダニは表皮に穴を掘って住みつくため、強い刺激やアレルギーによって脱毛や皮膚の荒れが起こります。重症化すると脱水や削瘦が進み、衰弱して死亡へつながる怖い病気です。

このタヌキも脱水と削瘦が見られたため、補液とダニの駆虫薬を与えて隔離室に入院させることにしました。幸いエサを食べる気力は残っていたため、給餌と保温をして経過を観察することにしました。

状態は決して良いとは言えませんが、今では皮膚の状態も改善し、体格も良くなりました。発毛が進めば、暖かな春には里に戻せると思います。



保護当日



40日後

(※現在外部からのタヌキの保護はしていません)

## 長い！

## 飼育員・ありかわ（ゆ）

みなさんは「長い動物」と言えば何を思い浮かべますか？  
今回は“腕が長い”テナガザルの紹介です。

1. その名の通り腕が“長”ーい！  
長く発達した腕を持ち、木にぶら下がって枝から枝へ、うんていで遊ぶように移動します。野生では地面に降りることはめったにないとされていますが、かみね動物園にいる3頭はときおり地面を歩いて移動することもあります。



2. “長”く、遠くまで聞こえる大きな声！  
テナガザルは森の中で暮らすサルです。自分たちのなわばりを守るためや、仲間同士の絆を深めるためにオスとメスでそれぞれフレーズの異なる鳴き声で合唱を行います。鳴き声は歌声のように聞こえることからソングとも言われています。  
かみね動物園では午前中に鳴くことが多いです！

テナガザルの特徴的な歩いている姿や歌声をぜひ見に来てください！